

第13 交通対策特別委員会調査報告の概要

1. 七隈線（橋本～天神南）免許申請までの経緯の一部抜粋

年月日	概要
平成3年 2月12日 調査報告	<p>高速鉄道3号線と西南部の交通体系について</p> <ul style="list-style-type: none"> 放射型のルートは「野芥周辺地区」から「七隈」「別府」「六本松」「渡辺通」を経由し、都心部の「天神」・「博多駅」に至る路線が適当であり、車両基地についても室見川左岸の「橋本、戸切及びその周辺地区」が適当である。また、都心部における天神からウォーターフロント方面への延伸、構造、事業主体等についても研究する必要がある。 環状型は、南部地域の将来的なまちづくりとあわせて、一層の調査、検討を進める必要がある。
平成4年 2月28日 中間報告	<p>高速鉄道3号線と西南部の交通体系について</p> <ul style="list-style-type: none"> 3号線の放射型ルートにおける天神からウォーターフロント方面に至る都心部ルートとしては、渡辺通りから国体道路、土居通りを経由して博多ふ頭に至る博多部経由ルートが適当である。構造形式は、全線地下構造形式が望ましい。 今後の事業化に向けた取り組みの中では、西南部と都心間の整備が優先されるべきである。また、機種、事業主体等について検討していく必要がある。 南部方面の対応として、環状型についても博多駅地区との結節を考慮しつつ、地域の将来的なまちづくりとあわせて早急に具体的な調査・検討を進めていく必要がある。
平成5年 2月26日 中間報告	<p>高速鉄道3号線と西南部の交通体系について 高速鉄道3号線沿線のまちづくりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 3号線の建設・経営主体については市がなるべきである。 都市整備局と交通局が一体となって3号線の早期事業化に取り組むべきであり、3号線沿線のまちづくりの調査・検討を踏まえ、国等関係機関等の協力、支援を得て3号線の早期実現に向け、特段の努力をするとともに機種、駅位置等について検討する必要がある。 環状型についても、博多駅地区との結節を考慮しつつ、地域の将来的なまちづくりとあわせて早急に具体的な調査・検討を進めていく必要がある。
平成6年 2月25日 中間報告	<p>高速鉄道3号線と西南部の交通体系について 高速鉄道3号線沿線のまちづくりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 3号線のシステムは鉄輪式リニアモーターシステムが望ましい。 整備優先区間、駅位置等については、3号線導入計画調査、沿線まちづくり調査等を踏まえ今後検討するとともに、国等関係機関等の協力、支援を得るよう議会としても国への要望等を積極的に行う必要がある。

年月日	概要
平成7年 2月14日 調査報告	高速鉄道3号線と西南部の交通体系について 高速鉄道3号線のまちづくりについて <ul style="list-style-type: none"> ・ 天神～橋本間の駅及び車両基地については、別図の位置が適当である。 ・ 3号線の沿線のまちづくりについては、3号線計画の事業化と並行して利便性、災害に強いまちづくり、住民参加等を考慮し、今後さらに調査する必要がある。 ・ 環状型についても、博多駅地区との結節を考慮しつつ、地域の将来的なまちづくりとあわせ調査・検討を進めていく必要がある。

※ 平成15年7月4日に、都市交通対策特別委員会は交通対策特別委員会に名称変更

2. 七隈線延伸（天神南～博多）の許可申請までの経緯の一部抜粋

年月日	概要
平成20年 2月13日 中間報告	高速鉄道3号線と沿線のまちづくりに関する調査 <ul style="list-style-type: none"> ・ 延伸計画については、今後パーソントリップ調査での将来予測等を踏まえつつ、地下鉄全体の経営状況、本市の財政状況等を勘案した上で、幅広く、総合的な調査・検討を進めていく必要がある。
平成21年 2月12日 中間報告	高速鉄道3号線と沿線のまちづくりに関する調査 <ul style="list-style-type: none"> ・ 延伸計画については、パーソントリップ等のデータが揃い需要予測を行う環境が整ったこと等から、現ルート（天神南～中洲川端～ウォーターフロント及び薬院～博多駅）に加え、参考ルート（天神南～博多駅）について報告を受けた。 ・ 今後、参考ルートを含め、早急に事業採算性等の検討を行い、厳しい本市の財政状況、地下鉄全体の経営状況、都心交通のあり方も十分に勘案し、実現可能な都心部区間の整備のあり方について、引き続き、総合的な調査・検討を積極的に進めていく必要がある。
平成22年 2月12日 中間報告	高速鉄道3号線と沿線のまちづくりに関する調査 <ul style="list-style-type: none"> ・ 都心部区間の検討ルートの中で優先して実現していくべきルートとしては、最も建設費の負担が少なく、利用者数が多く見込まれること等から事業採算性に優れ、費用対効果が大きい天神南～博多駅ルートが妥当であるとの報告を受けた。 ・ 今後、この報告に基づき、示された市民の意向や効率的で利便性の高い公共交通体系の確立、厳しい本市の財政状況、地下鉄の経営状況等に十分留意しながら、調査・検討を進めていく必要がある。 ・ なお、天神南～中洲川端～ウォーターフロント及び薬院～博多駅の2ルートについては、将来のまちづくりの進展等を見据えて、長期的視点に立った検討を進めていくべきである。

年月日	概要
平成23年 2月9日 調査報告	<p>高速鉄道3号線と沿線のまちづくりに関する調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 都心部区間については、天神南～博多駅ルートについて、国等の関係機関との協議に早急に着手する等、早期実現に向けた取り組みを進めていく必要があるとの報告を受けた。厳しい本市の財政状況、都心交通のあり方等を十分勘案しつつ、今後の取り組みを進めていく必要がある。 なお、天神南～中洲川端～ウォーターフロント及び薬院～博多駅の2ルートについては、将来のまちづくりの進展等を見据えて、長期的視点に立った検討を進める必要がある。
平成24年 2月10日 中間報告	<p>高速鉄道3号線と沿線のまちづくりに関する調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 延伸区間については、シンポジウムの開催等市民への情報発信や国予算の確保に向けた要望活動等を行うとともに、環境アセスメントの手続に着手しており、24年度予算政府案に延伸関係予算が計上され、国の補助金の確保に一定のめどが立つたことを踏まえ、必要な手続を進め、早期着工を目指して取り組んでいくとの報告を受けた。 今後とも、3号線と沿線のまちづくりについては、事業の進捗状況を注視しながら、延伸後の交通需要の変化を踏まえた総合交通体系の確立に向け、総合的な調査・検討を進めていく必要がある。